

津守常弘先生定年退職記念号に寄せて

経済学部長 池上 和夫

津守常弘先生は、平成12年3月31日付けをもって本学を定年ご退職されました。

先生は和歌山県田辺市にお生まれになり、和歌山経済専門学校（現和歌山大学）、大阪商科大学（現大阪市立大学）を卒業後、京都大学大学院経済学研究科に進学され、大学院を終了された後、直ちに立命館大学経営学部に勤務されました。昭和45年10月には九州大学に移られ、平成5年3月、23年間勤務された同大学を定年ご退職された後、本学経済学部教授に就任されました。以来、7年間、会計学、基礎簿記、基礎会計、財務諸表論、ゼミナールなどを担当され経済学部の研究教育のために尽力されてこられました。

先生のご研究は、配当可能利益概念の歴史的な分析、ドイツ動態論研究、アメリカ動的会計理論成立基盤の研究、財務諸表公開制度の研究などであり、特に財務諸表公開理論については、「公開」が会計計算の内容を規定しつつあるという顛倒的な関係を指摘され、また「規制」と「規制回避」との矛盾が企業会計に与えている影響を指摘されるなど全く新しい分析視座を提示されました。学会活動としては日本会計研究学会評議員、同学会賞審査委員、日本会計史学会理事、同会長、国際会計研究学会理事などを歴任し広く学会をリードされてきました。

本学においては教学評議員、経済貿易研究所所長等を歴任されましたが、特に平成7年4月に大学院経営学研究科に博士後期課程を開設する際には学部を超えて全学的な見地から多大の貢献をされましたことは記憶に新しいところがあります。

先生のご研究の根源には若い頃の「哲学研究」があり、それが先生の、具体

的・個別的なものの徹底した研究から一般的・普遍的なものへと進められて分析される方法に繋がっているのではないかと思われます。ご定年とはいえ軽妙酒脱で温厚なお人柄の先生の警咳に接する機会が少くなることは誠に残念ですが、これからも先生が健康に恵まれ、益々お元氣でご研究を続けられてご活躍下さいますように心からお祈り申し上げます。